

「世界の平和を次の世代のために確保するには、今日の子どもたちの間に、理解と親善の心を徐々に育て上げてゆくことが、非常に大切であることを忘れてはなりません」

Dolls of Friendship抄訳より・・・

<青い目の人形～リトルメリー～の歓迎式>



昭和2年[1927年]5月18日島原中学校講堂・青い目の人形の歓迎式の写真(リトルメリーは最上段の右から2つめ)

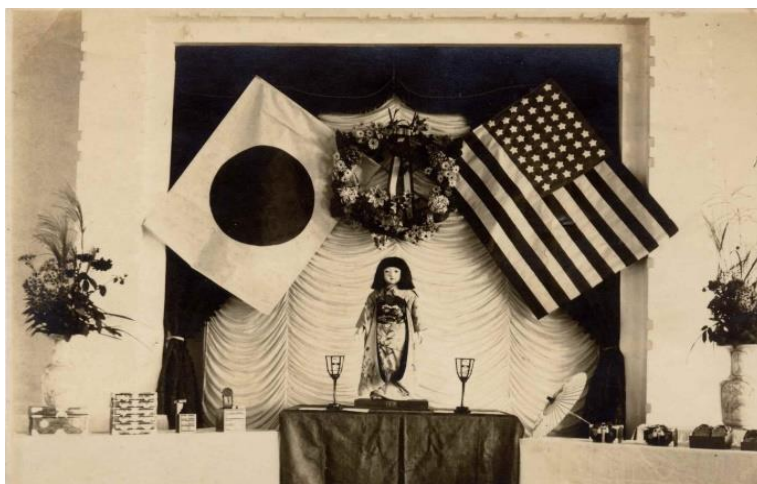
4つの青い目の人形の上には友情をあらわすスイートピーの花輪が飾られています。青い目の人形達が寂しくないようにと、各学校の子も達が、日本人形や、お雛様などのお人形を持ち寄って一緒に飾りました。盛大な歓迎式は、和やかなお人形さん達の交流会でもありました。

「星の国からようこそいらっしゃいました。仲良くいたしましょう」と、島原の子どもたちは青い目の人形を歓迎しました。1927(昭和2)年5月18日島原中学校講堂で、島原町3つの小学校と2つの幼稚園の子どもの合同歓迎の式が開かれました。また答礼人形として、ミス長崎・長崎瓊子がアメリカへ出発するお別れの会が、10月11日に同じように行われました。この人形の交流の取り組みは、まず子どもたちの心に友好の花を育て、大人にも親善の気持ちを深めようと、アメリカのギューリック博士が提案したものです。早速アメリカから1万2000体、日本から58体の人形が太平洋を渡りました。その中の一つが島原一小的のメリーちゃん、アメリカへ渡った「ミス長崎」長崎瓊子です。

しかし不幸な戦争の時代を迎えました。人形といえども敵国人だと、処分されましたが、メリーちゃんは奇跡的に生き延びました。タマコ人形も無事でした。2つの人形は2003年に再会して、改めて日米両国の親善に大きな役割を果たしたことを私達に教えました。博士の孫にあたるギューリック3世は、祖父の意志を受け継いで人形を贈り続けています。

島原にも三小にアンナちゃんが、一小にジョアンナちゃんがやってきました。またひかわ幼稚園にも友情人形が贈られました。今年も島原城にリトルメリーと仲間たちが集まりました。島原の青い目の人形をご覧ください、その声に耳を傾けましょう。

<答礼人形～ミス長崎「長崎瓊子」の送別式>



昭和2年[1927年]10月11日島原中学校講堂・「長崎瓊子」の送別式の写真

<長崎瓊子の里帰り展>



ミス長崎「長崎瓊子」

アメリカニューヨーク州

ロチェスター市科学博物館所蔵>

青い目の人形のお礼に日本の子も達からは日本人形58体が贈られました。長崎代表の答礼人形「長崎瓊子」は行方不明となっていました。が、ニューヨーク州ロチェスター市科学博物館に保管されていたことがわかり、2003年の春75年ぶりに里帰りし、桜満開の島原城での島原展には6日間で約7千人の皆様にご来場いただきました。

niguis

青い目の人形「リトルメリー」が島原市文化財に指定されました!



島原市文化財指定書

2015年12月1日には、青い目の人形「リトルメリー」が島原市文化財に指定されました。島原親善人形の会では、これからも青い目の人形「リトルメリー」とその歴史と意義を「島原の宝」として身近な相互理解や平和について皆様とともに考えじっくりと伝えていく活動に取り組んでいきたいと思ひます。指定書と一緒に校長室でお正月のリトルメリー



niguis

<日米親善人形交流の歴史～長崎県内に残る2体の青い目の人形～「リトルメリー」と「エレン・C」>

昭和初期、貿易や移民問題をめぐって日米間には暗雲がちこめ、1924(大正13)年にアメリカで制定された「排日移民法」は日米間に深刻な緊張関係を生み出しました。20余年間を日本で過ごした親日家の宣教師シドニー・ギューリック氏はこのことに大変心を痛め、それまでに築かれた両国の友好関係を失いたくない、何としても若い世代に受け継ぎたいしてほしいという思いから「両国の親善を子どもたちに託そう」と、全米の民間青少年団体などに呼びかけ、日本の風習行事である「雛祭り」に合わせて、昭和2年に約12,700体の「青い目の人形」を日本の子どもたちに贈りました。日本側でこれを受けたのは、ギューリックが在日中からの知人で同じ思いを抱いていた、わが国資本主義の育ての親であり、生涯を通じてさまざまな社会福祉や教育事業、民間経済外交に尽力されていた渋沢栄一氏でした。青い目の人形たちはすぐに全国の幼稚園や小学校に配分され、長崎県には214体が届けられました。そして島原にも青い目の人形たちが贈られ、各学校では盛大な歓迎式が行なわれました。子どもたちは異国の人形を抱き、髪や目の色の違いを超えた友情の大切さに目を開かれたのでした。

その年の秋、日本からもこれに答えて、子どもたちからも1銭募金を募り、各県等を代表する58体の市松人形を答礼使節としてアメリカに贈りました。長崎の人形は「長崎瓊子」と名付けられ、長崎県内を巡回し、島原中学校講堂でも合同の盛大な送別式も行われたそうです。

しかし、その後日米は友好を願う多数の人々の願いにも拘わらず、昭和16年に不幸な戦争に突入し、多くの「青い目の人形」は敵国の人形として壊されたり捨てられたりしました。こうした中で生き残った人形は全国で300余体、長崎県では島原の「リトルメリー」平戸の「エレン・C」の2体だけです。

島原に残る「リトルメリー」は、当時の島原第一小学校の女児生徒の雛人形の箱の中に、雛人形たちといっしょに、アメリカ人形だとわからないように洋服も脱がされ新聞紙に包まれて入れられ、給食室の屋根裏に隠され、何十年も忘れられていました。戦争が終わり落ち着いた頃、雛人形の箱が発見された頃には、昭和初期にアメリカから贈られてきた青い目の人形の使命や歴史などは忘れられてしまっていました。26年ほど前、日米親善の友好と平和の使者として、贈られてきた人形であることがわかりました。そして今尚、島原第一小学校では青い目の人形「リトルメリー」を大切に保管しています。平戸に残る「エレン・C」は平戸幼稚園で伝えられていて、1982年に日米親善人形と確認され、添付の札から、名前とともに送り主がオハイオ州ウイルミルトンの聖書学校であることがわかっています。

一方、アメリカへ渡った日本人形たちも、戦争中に博物館の奥深くに収納され、長い間忘れられていました。「長崎瓊子」人形もすっかりその存在を忘れられていましたが、平成13年にニューヨーク州のロチェスター市科学博物館にて保管されていることが確認されました。そして、そのミス長崎「長崎瓊子」が発見されたことをきっかけに、2003年春に75年ぶりに長崎へ里帰りさせ、県内で巡回展をおこないましたが、島原展では6日間で約7000人の来場者があり大きな反響を呼びました。それ以来その後も次世代の子ども達に、この島原における日米親善人形交流の歴史と意義を引き続き伝えていこうと、島原では1年に1度、春うららかな島原城に「リトルメリー」を囲んで親善人形たちが勢揃いし、市民や観光客のみならず日米親善人形交流の歴史にふれていただく一般公開の機会を設けております。

<新青い目の人形や新友情人形たち>



アンナ

(島原第三小学校)

ジョアンナ

(島原第一小学校)

アップルパイウエンディー ラグガディー・アン&アンディー

(ひかわ第一幼稚園)

(ひかわ第一幼稚園)

昭和初期にアメリカからお人形を贈ってくださった、ギューリック博士のお孫さんのギューリック3世が、「アンナ」「ジョアンナ」を「リトルメリー」の妹人形として贈呈してくださいました。

niguis